

# 山梨県立文学館 館報

1989(平成元)年  
11月 創刊

## 第98号



宇宙のさくら 藤田真一  
特設展「辻風外 甲州の近世俳人」  
資料紹介  
閲覧室より・寄贈資料より

4 3 2

館からのご案内  
教育普及事業報告  
やまなし文学賞結果・  
「資料と研究」第二十一輯目次  
館の日誌・利用のご案内

8 7 6 5

### 特設展

## 「辻風外 甲州の近世俳人」開催

四月二十九日(金・祝)～六月十九日(日)

越前敦賀(現・福井県敦賀)に生まれ、その後甲州に移り住んだ江戸後期の俳人・辻風外(一七七〇～一八四五)。別号に「六庵」「南無庵」「北亭」などがある。俳人の五味可都里を頼って甲州を訪れ、以後、住まいを何度か移しながら、歿年まで甲州で過ごした。超俗洒脱の人として知られ、「甲斐の山八先生(「嵐」の時を「山」と「凡」に分けた)とも称された。味わい深い書画を多く遺したことで知られている。

代の目から見ても親しみと共感を呼ぶ嵐外の作品と書画の魅力を紹介。  
辻風外「きかさじとするはつ声か子規」  
自画賛軸装、「此君の鯨もつれるか見て居たし」自画賛軸装などの他、十二ヶ月の自画賛十二幅を一同に展示。常設展観覧料でご覧いただける。  
■関連イベント  
・文学講座「定員150名」  
「辻風外の句と画の魅力」  
5月14日(土) 午後2時～3時10分  
講師 高室有子(当館学芸課長)  
会場 研修室

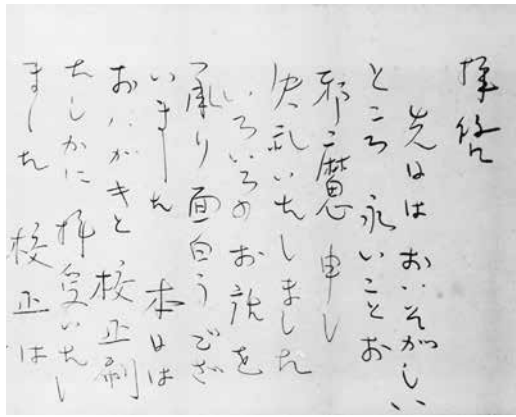


辻風外「きかさじとするはつ声か子規」自画賛軸装

・ワークシヨップ「定員20名」  
「つまみ細工でおしゃれな巾着を作るう！」  
「嵐外の梅の花」  
5月22日(日) 午後1時30分  
講師 飯島薫(洋風つまみ細工作家)  
対象 小学生以上(低学年は保護者の付き添いが必要)  
材料費 500円(申し込み後のキャンセルについては材料費をいただきます)  
会場 研修室  
※お電話か当館受付でお申し込みください。

「新収蔵品展 お宝そろいぶみ」  
開催中  
三月二十一日(月・祝)まで

平成二十七年に収蔵した資料を中心に約八十点を展示。入場無料。  
太宰治が竹村書房の店主竹村坦に宛てた書簡は山梨鈴木助成事業財団寄贈の資料。一九四〇(昭和十五年)年四月に竹村書房から刊行された『皮膚と心』の出版について書かれている。笛吹市出身の歌人鈴木孝の旧蔵資料には、鈴木が師事した窪田空穂や松村英一の揮毫した書や、鈴木宛の書簡などがある。  
このほか、山本周五郎の「おさん」原稿、谷崎潤一郎や芥川龍之介の書簡、井



太宰治 竹村坦宛書簡  
1940(昭和15)年4月頃(部分)

伏鱒二、村岡花子の原稿、榎並和春、くぼたつぎおによる第二十三回やまなし文学賞新聞連載時の挿絵原画など。

### 津島佑子氏逝去

作家の津島佑子氏が二月十八日、肺がんのため逝去されました。享年六十八歳。第十四回からやまなし文学賞小説部門の選考委員を務められ、また平成二十六年七月の文学創作教室で御講演いただくなど、様々な面で館の活動に御助力、御指導賜りました。  
謹んで御冥福をお祈りいたします。

## 宇宙のさくら

藤田真一

この世には、ときにふしぎな縁を感じさせる遭遇があるようだ。

俳句という文芸は、江戸の世から現代まで、四百年を生き続けてなお瑞々しさを保っている。最近も、その証を目の当たりにすることがあった。

画家にして俳人の蕪村が生まれたのは、享保元年(一七一六)のことだった。というわけで、昨年から今年にかけて、生誕三百年を記念してさまざまな催しが各地で開かれている。展覧会や講演会など、多彩な趣の企画が行なわれてきた。そのなかでここでは、去る十月から十一月にかけて開かれた天理図書館の展示にふれてみたい。

さすが図書館だけあって、絵画は比較的限られており、俳句関係の書物や資料が中心だった。なかでも超目玉は、句稿

『夜半亭蕪村句集』。八十年前にごく一部

が紹介されたとき、ずっと行方知れずだった逸品である。全一九〇三句収載、うち二一三句は掛け値なしの新出というから、まさに垂涎の的といえる句集だ。数十年に一度ともいえるべき新発見である。十月発行の図書館誌『ジブリア』には、春四六八句と夏四六五句を翻刻・紹介していた(次号に秋・冬の部)。

話は変わるが、京都府北部の与謝野町では、毎年十一月に「蕪村顕彰」と銘打った俳句大会を催している。昨年で四回目となった大会では、俳人の茨木和生・大石悦子の両氏と鼎談をやることになった。テーマは「句会の楽屋」、夜半亭句会の内情を覗いてみるというのが趣旨で、それに合わせて、現代の句会や結社の内輪話をお二方からうかがうというねらい

である。そこで、話題の新出句稿『夜半亭蕪村句集』を紹介する思惑もあった。

二百句以上の新出句から、これはとももわれる数句を抜きだして、会場で見せすることにした。たとえば「きぬぎぬや梅が香を裂妹が門」は、後朝の別れをよんだ恋の句、「雁行て田にし夕部を愁泣」は、秋以来親しくなっていた雁と田螺が、翌春には涙の別れをするさまを詠じた作。いずれも、さすが蕪村、とうならされる詠みぶりである。

そんななか、こんな花の句も披露に供する心づもりだった。

さくら咲て宇宙遠し山のかい

あらかじめこんな準備をして、この大会に臨むこととなった。

大会に出ると、事前に投句された全句が冊子となって配布された。そこには俳句大賞や知事賞といった優秀作が掲載・列記されている。そうした入賞作のひとつで、三重県の秦富美子氏の句が、「与謝野町教育委員会教育長賞」を受賞しているのを目にした。

大花火吸ひ込む宙の広さかな

これを見た瞬間、思わず嘖然とした。こんな偶然があるのか!

新発見の蕪村俳句「さくら咲て」と、

まるでしめし合わせたようではないか。蕪村の句は、山と山が重なった狭間から見える大空に、満開の桜がみごとに咲き誇る景色をよんだもの。かたや秦さんの作は、一瞬華やかに開いた花火がたちまち無窮の広がりをもつ夜空に吸い込まれていった、という句。桜に花火、春に夏、白日に夜中と対照的な景なのだが、気宇の壮大さを共有するさまは、まさにあうんの呼吸のようだった。

ここで気になるのは、蕪村の「宇宙」の文字である。中国紀元前の書物『淮南子』に見える由緒あることばなのだが、これを現代風に「ウチュウ」と読んでは、字足らずで俳句にならない。古辞書によると、日本では古くから「オオゾラ」と和訓していた。なるほどそう読むと、きちんと俳句におさまる。花火の句の「宙」も「ソラ」と読むのだろう。

となると、二句は愈々親近感を増す。同種の用語、似た趣向の二句を句兄弟というが、すっかり三百年のときを隔てた兄弟にみえるではないか。こんな驚きの大会となった次第である。

(関西大学文学部教授)

■特設展 資料紹介

「辻嵐外 甲州の近世俳人」



辻嵐外像『峡中俳家列伝』より

辻嵐外は、一七七〇(明和七)年、越前の国敦賀(現在の福井県敦賀市)の呉服商の家に生まれ、一七九五(寛政七)年、京の高桑園更の紹介により、甲州の藤田村(現 南アルプス市)の俳人五味可都里を頼って甲州に移り住んだ。以後、落合村(現南アルプス市)の新津不金ら甲州の人々の庇護のもとで何度か住まいを移しながら活動を続け、一八四五(弘化二)年、七十五歳で歿した。

梅の花けふをきのふに一日づつ  
四五畳の石の平らや青あらし  
身を笠にまかせておけば秋の風  
霜の夜や甲斐に居しめる膝頭  
などの句がある。多くの門人の中でも代表的な十人は後に「嵐外十哲」と称され、さらにその門下の人々が、幕末から明治初期へとつながる山梨の近代俳句の隆盛の礎を担った。

辻嵐外 十二ヶ月自画賛 個人蔵

嵐外が、一年十二ヶ月それぞれに寄せて詠んだ発句に、画を描いた軸装十二幅。

例えば一月は、注連飾りの絵に「蓬菜やよし野の山もかざりたき」、二月は花を咲かせた梅の木に「鶯の啼木ばかりの二月かな」、三月は雛人形の絵に「雛ひとつ鏡のうちにかざりたき」の発句が添えられている。端午の節句(五月)や七夕(七月)、えびす講(十月)など、月々の行事を取り上げた作がある一方、

「霜月は何もまじらぬ寒さかな」(十一月)のような自然詠もある。

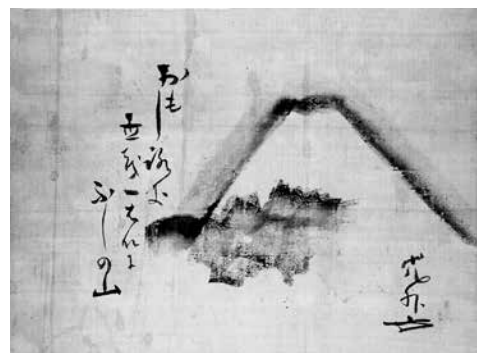
「つかく」と水に雪降る師走かな」(十二月) 自画賛では、歳晩の自然・天候を詠んでいるが、描かれている絵は荒々しい竹箒一本。句と画があいまって師走の人心の慌ただしさが醸し出され、年末の情景の広がりを見せている。

本資料は、嵐外と同時代、甲州の台ヶ原(現 北杜市白州町)で活躍した俳人北原台眠の生家に伝わる逸品。十二ヶ月を揃えた一式は珍しく、今回初めて一同に展示される。



嵐外十二ヶ月より 三月(右)と十二月(左)

辻嵐外「おもしろき世を一はいにふじの山」自画賛 個人蔵



甲州俳人の動向をまとめた『峡中俳家列伝』(佐藤二葉著 一九〇六年)、『甲斐俳人傳』(小澤柳涯著 一九二三年)によると、嵐外は一八四五(弘化二)年三月二十六日、下今井の今井井々子宅での興行中に昏倒し、そのまま亡くなった。生前「ふじの山見ながらしたき頓死かな」と詠んだ通りの往生として伝わる逸話。歿後刊行の『嵐外発句集』(乾坤二冊、安楽林社編、一八四八年)には、いくつかの富士の句が見られ、本自画賛もそのひとつとなる。

この他「ゆふだちや骸の垢のぬける音」などの自画賛軸装、また、嵐外十哲の一人北野道等の屏風などを展示する。

(学芸課 高室有子)

## 閲覧室より

### この一年

静かな時が流れ、あまり変化がないように感じられる閲覧室ですが、振り返ってみると、今年度もいろいろなことがありました。平成二十七年は、戦後七十年の節目の年ということで、メディアも様々な切り口でとりあげていました。文学館でも文学の視点から戦後七十年を振り返る取り組みを行いました。閲覧室では七月十八日から八月三十日の期間「児童雑誌が描いた戦中・戦後」という資料紹介を行いました。戦争が激しさを増す



中、言論統制が厳しくなり児童雑誌も統廃合や検閲などが行われ、内容も国威発揚や戦争賛美なものばかりになりました。戦後は、表紙は明るくなり、外国のお話や英語の話し方なども載るような自由で楽しい雑誌になります。それらを並べて展示することで、作家的な情報を一方的に受けざるを得なかった時代、戦中と戦後で手のひらを返したような内容の変化など、言論統制の怖さや子供達への影響の大きさを知るものとなりました。夏休みとも重なり、多くの方に見ていただく機会となりました。

一年間を通して、テーマごとや文学者の誕生日にあわせた資料紹介などを行っています。その都度、来館者から感想やご意見をいただき参考になりました。

秋には、山梨県出身の大村智先生がノーベル賞の医学生理学賞を受賞されたことが大きなニュースとなりました。県出身者ということもあり、連日大きな話題となりました。当館で所蔵している「中央線」という同人誌にエッセイを寄稿されていることがわかり、先生の写真や略歴、受賞歴とともに寄稿掲載の「中央線」を展示しました。「中央線」は県内で発行されている文学の同人誌です。昭和四十三年の第一号からほぼ年一回発行されています。大村先生は、「大村哲史（おむらさとし）」のペンネームで、平成十八年第六十三号から平成二十六年第七十一号までの間に十二回、エッセイをよせています。内容は、家族のこと、仕事のこと、今話題のことなど、その時々



の思いを綴られています。大村先生の人となりや垣間見え、興味深いものです。大村先生のエッセイが一度に閲覧できるところが少ないので、多くの方に関心をもちてもらえることができました。三月末まで展示しています。

十二月に私たち職員の仕事に大きく関わっているシステムの入れ替えがありました。また、四月からホームページも新しくリニューアルする予定で、準備を進めています。業務環境を整えることで、多くの方にさらなる確かな業務提供や迅速な情報発信ができるように努めていきたいと思っております。ご来館をお待ちしております。

(資料情報課 土橋 みえ)

### 「寄贈資料より」

○平成二十七年八月〜平成二十八年一月

○山本つばみ氏より田中冬二詩染抜き風呂敷など二点。

○森田睦氏より「額紫陽花図」一枚物など二点。

○高室トシ氏より高室貞龍『句集惜春』原稿など特殊資料二五六点、図書一四五点、雑誌四七五点。

○金森直治氏より加藤郁乎書簡など三点。

○田中文人氏より雲母社名入り印伝名刺入れ。

○古屋久昭氏より「古屋久昭さんの出版記念「みどりの日・交流会」パンフレットのほか、図書一点、雑誌一点、視聴資料一点。

○鈴木孝哉氏より窪田空穂『丘のある街』を読む(1)原稿など一五一点。

○備仲臣道氏より坂本篤年譜、雑誌二点。

○岡井隆氏より岡井隆『暮れてゆくバス』原稿など特殊資料三四点、図書一点。

○村松定史氏より辻邦生書簡など特殊資料一七八点、図書三四点、雑誌三〇点。

○森田進氏より「檀山節考」パンフレット。

# 館からのご案内

## ■教育普及事業

※各企画・講座とも参加・受講無料。

### ○年間文学講座「定員500名」

・講座1「甲州地誌『裏見寒話』—甲州の伝説をよむ」

講師 長谷川千秋 (山梨大学准教授)

5月21日(土)「甲州の文化・こころを伝える—『裏見寒話』の世界」

6月18日(土)「亡霊を鎮める日蓮—遠妙寺と石和の鵜飼」

講座2「宮沢賢治童話の世界」

講師 牛山恵(都留文科大学名誉教授)

5月12日(木)「二人の紳士に仕掛けられた山猫の罠—」注文の多い料理店」

6月9日(木)「恐怖と感動の賢治ワールド—賢治童話の魅力と作品群」

いづれも午後2時〜 会場 講堂

※お電話か当館受付でお申し込みください。

### ○名作映画鑑賞会「定員500名」

・5月15日(日)「居酒屋兆治」

監督 降旗康男 原作 山口瞳

1983年 125分

・6月19日(日)「真昼の暗黒」

監督 今井正 原作 正木ひろし

1956年 124分

いづれも午後1時30分〜 会場 講堂

※申込不要。当日定員を超えた場合はそれ以降の入場をお断りさせていただきます。

平成二十八年度の年間文学講座、名作映画鑑賞会の年間予定は、チラシまたは4月以降当館ホームページをご参照ください。

### ○初夏の文学創作教室

・「三枝浩樹 初心者短歌教室」

山梨歌人協会会長の三枝浩樹氏を講師に、初心者対象の短歌の連続講座を実施します。

開催日

第一回 5月7日(土) 講義

第二回 5月28日(土) 実作

第三回 6月25日(土) 歌会

会場 研修室

定員20名(全回出席できる方)

※要申込。往復はがきに①郵便番号②住所③氏名・ふりがな④電話番号を明記し、当館までお申し込みください。

申込締切4月8日(金)

今秋は、これまでの初心者短歌教室の受講者や、短歌愛好者の方にご参加いただける短歌講座を実施する予定です。次号の館報でお知らせします。

### ○読書会

5月8日(日)「銀河鉄道の夜」

6月12日(日)「お伽草紙」

いづれも午後2時〜4時

※お電話か葉書で(氏名・電話番号を明記の上)お申し込み下さい。

### ■展示室

#### ○第一〜四室展示替え

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など

山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第一室で期間限定の資料展示を以下のとおり行います。

・春の常設展

芥川賞作家・李良枝(イチャジ)

3月15日(火)〜6月5日(日)

・夏の常設展

与謝野晶子

6月7日(火)〜8月28日(日)

○第五室の展示替え

山梨出身・ゆかりの文学者104名を二期に分けて展示。

・詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第一室で期間限定の資料展示を以下のとおり行います。

・春の常設展

芥川賞作家・李良枝(イチャジ)

3月15日(火)〜6月5日(日)

・夏の常設展

与謝野晶子

6月7日(火)〜8月28日(日)

○第五室の展示替え

山梨出身・ゆかりの文学者104名を二期に分けて展示。

・詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

〜3月13日(日)

・小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

4月29日(金・祝)〜8月28日(日)

※第五室は3月15日(火)〜4月28日(木)は休室します。

### ■閲覧室

#### ○閲覧室資料紹介

・「映像になった文学作品」

〜4月10日(日)

・「やまなしの文芸同人誌—私の表現世界」

4月29日(金・祝)〜6月19日(日)

○文学者の誕生日にちなんだ資料紹介

・「木々高太郎(5月6日生まれ)」

4月22日(金)〜5月12日(木)

・「新田次郎(6月6日生まれ)」

5月27日(金)〜6月9日(木)

次の皆様からも図書・雑誌を御寄贈いただきました。(敬称略)

相原 千里	杉本 艸舟
芦沢 誉明	関口 安義
荒木 春秋	葛木 雅清
池田 政子	内藤 利信
五十嶋 一晃	中込 菊子
一瀬 公弘	中田 水光
岩窪 征子	中根 誠
内田 しずと	西嶋 あさ子
江本 たつ子	野澤 俊之
大崎 紀夫	能村 研三
小川 靖彦	秦 恒平
尾崎 左永子	花里 鬼童
小笠 裕二	平松 伴子
数野 徳子	福田 はるか
勝又 星津女	保坂 紀夫
岸本 尚毅	星野 光二
梶原 好子	堀内 幸枝
黒沢 忍	水木 亮
小山 弘明	森 潮
近藤 信行	森山 晴美
斎藤 芳弘	矢崎 徹
坂本 勝彦	山下 良枝
佐野 秀延	わたなべ じゅんこ
庄司 達也	

この他に団体の方々からも御寄贈いただいております。

■二〇一五年年度の教育普及事業報告

◇川上未映子さんによる朗読講演会

十月三日(土)、作家の川上未映子さんを講師に迎え、朗読講演会を実施した。川上さんは河出書房新社から、樋口一葉「たけくらべ」の現代語訳を昨年二月に刊行したばかり。現代語訳に当たり苦勞したところとともに、再発見した一葉の文章の魅力を語った。また、「たけくらべ」の原文を目で追いながら、川上さんの訳を朗読で聞くくぐりもあり、新鮮な体験となった。

参加者のアンケートでは「たけくらべ」の登場人物が生き生きと感じられた」「原文を見ながらの朗読がおもしろく有意義だった」といった声が寄せられた。



◇出前授業

十月二十三日、二十六日の二日間、二時間にわたり、甲府支援学校で出前授業を行った。中学二年生の二人と、先生方とともにことばのゲームをした後に、一人二句の俳句を作り、二回目の授業で句会を実施。出された句の中で好きなものを

を二つ選んでもらい、好きなところや感想を述べあった。授業の最後には、館の職員へのサプライズプレゼントも。盛り沢山の内容となった。



甲府支援学校出前授業の様子

◇平成二十七年年度の主な博学連携事業

・移動文学館

「石川啄木等身大パネルセット」

大和中学校・北東中学校・秋山小学校・秋山中学校・御坂中学校・橋本高校(神奈川県)・竜王西小学校・宝小学校・禾生第二小学校・東桂小学校(計十校 掲載は貸出順)

・移動文学館

「飯田蛇笏・龍太ちまちなま形セット」

丹波小学校・丹波中学校・北東中学校(Aセット、Bセット)・八代小学校・山梨県立大学・六郷小学校・六郷中学校・市川南小学校・市川南中学校(計十校)

・移動文学館

「村岡花子と『赤毛のアン』セット」

中央高校・豊小学校・六郷小学校・六郷中学校・市川南小学校・市川南中学校・市川小学校・市川中学校・上野小学校・三珠中学校・市川東小学校・大塚小学校・北東中学校(十三校)

・出前授業

丹波小学校・石和中学校・六郷小学校・甲府支援学校(計四校八回)

・校内文学館プロジェクト

六郷小学校の六年生は一年を通して宮沢賢治の調べ学習を実施。その学習の成果を、校内に展示室を設けて発表した。文学館は出前授業を通して解説パネルの作り方などを支援。校内展示は二月九日(火)から二十四日(水)まで行われた。



六郷小学校児童による展示作業の様子

・来館実績

早川中学校・白根御勅使中学校・上野原高校・高根中学校・下部中学校・日川高校・竜王中学校・身延中学校・櫛形中学校・長坂中学校・明野中学校・田富中学校・葎崎西中学校・須玉中学校・葎崎東中学校・玉穂中学校・若草中学校・双葉中学校・早稲田高等学院・甲西中学校・上野原中学校・星槎国際高校・敷島中学校・城西高校・中央高校・大月東中学校・御殿場市原里中学校・新田小学校・東京都開成中学校・山梨英和中学校・六郷小学校・上条中学校・春日居中学校・埼玉県伊奈学園高校・駿台甲府高校・長坂小学校・塩山高校・甲府西高校・北杜高校・ひばりが丘高校・山梨学院中学校・甲府昭和高校・市川中学校・山梨高校・市川南小学校・甲斐清和高校・甲府東中学校・山梨学院小学校・吉田高校(計四十九校六十五回 掲載は来館順)

・「リーディングシアター2015」文学館」十二月十二日(土)、豊小学校・櫛形中学校・白根巨摩中学校・須玉中学校・久那土中学校の計五校より六チーム四十四名が参加。

※当事業は今年度をもって終了します。これまでのご協力に感謝申し上げます。

樋口一葉記念

第二十四回やまなし文学賞結果

一、応募状況

本文学賞は、山梨県と深いゆかりを持つ樋口一葉の生誕百二十年を記念して、平成四年に制定された。山梨県の文学振興と、日本の文化発展を図り、今回も小説募集と研究・評論の推薦を受ける部門で実施した。選考委員は小説部門が坂上弘・津島佑子・佐伯一麦、研究・評論部門は、十川信介・中島国彦・兵藤裕己の各氏。

第二十四回目の今回、小説部門では全国四十七都道府県および海外二カ国から、二五九編の応募があった。うち男性が一八九編、女性が七十編、山梨県内在住者は二十五編だった。最年少者は十五歳、最年長者は八十六歳で、六十歳代の応募が最も多かった。都道府県別では東京が最も多かった。研究・評論部門の推薦作品延数は一〇六編で、うち自薦十六編(単行本十一冊、雑誌掲載五)、他薦九十編(単行本九十冊、雑誌掲載無し)だった。

二、選考結果

選考会は、小説部門を二月十日(水)に、研究・評論部門を二月十六日(火)

に東京の學士會館で行い、受賞作を決定した。選考結果の発表は、三月二日(水)午後三時に行った。

小説部門のやまなし文学賞には百万円、同佳作二編には各三十万円、研究・評論部門のやまなし文学賞二編には各五十万円の賞金が贈られる。

また、小説部門の三編は山梨日日新聞紙上及び同紙ウェブサイトに掲載、やまなし文学賞「彩りの郷にて」は単行本として刊行する。

◆受賞作品◆

小説部門

□やまなし文学賞

「彩りの郷にて」

山本 淳子氏(福井県在住)

「受賞の言葉」

この度は私の作品「彩りの郷にて」を山梨の方々が高く評価してください、本当にありがとうございます。吉報を聞いた時は、ウソッて思いながら涙が込み上げてきました。

私の作風は壮大なスケールや華美な所は皆無で、緻密な計算もありません。また稚拙な文体もありますが、丁寧に大事に書くよう努めました。

人が生きていく中で、今昔変わりなく誰かを思い、何かを思いそして行動する。これを繰り返して重ねて日々が営まれてゆ

く。その中で胸を焦がす思いや、激しく揺れる感情に左右されながら、運命とか壁を受け入れ乗り越えてゆく、その人情の機微を描いてみたいと思いました。自分で書きながら何故か感情移入して、心中穏やかではいられませんでした。だから書き終わった時には、安堵感と一緒に寂しささえ感じました。

これを機に山梨に俄然興味が湧いてきました。今度じっくり観光したいと思えます。本当にありがとうございました。

□やまなし文学賞佳作

「風の町」

真野 光一氏(北海道在住)

「山靈観音」

原 雪絵氏(北海道在住)

研究・評論部門

□やまなし文学賞

・高橋 修

『明治の翻訳デイスクール 坪内逍遙・森田思軒・若松賤子』

(二〇一五年二月 ひつじ書房)

(略歴) 上智大学大学院博士後期課程 修了。共立女子短期大学教授。

東京都在住。

・川平敏文

『徒然草の十七世紀 近世文芸思潮の

形成』(二〇一五年二月 岩波書店)

(略歴) 九州大学大学院博士後期課程 修了。九州大学大学院人文学

学研究院准教授。福岡県在住。

「資料と研究」第二十一輯目次

A5判二二八頁・三月下旬発行

・座談会 季節と日本人―大震災と季語の宇宙 宇多喜代子・長谷川 權・井上 康明

・飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 翻刻 一九二二(大正十二)年〜一九二八(昭和三)年 高室 有子・中野 和子

・わが心の田中冬二 林 望

・田中冬二 長谷川巳之吉宛書簡 翻刻 (二)

・佐佐木信綱、明治三十六年の甲斐紀行 伊藤 夏穂

・芥川龍之介「奈良」ノート断片翻刻 三枝 昂之

・芥川俊清「日記」翻刻と解題(二) 保坂 雅子

・中村星湖作成スクラップブック②⑤ 中村 章彦

その四 土橋 みえ・水上百合子

## 館 の 日 誌

- 9・12(土) 年間文学講座Ⅰ「大進生昌が家に」段をめぐる  
講師 池田尚隆(山梨大学教授)
- 9・17(木) 年間文学講座Ⅱ「地の果ての獄」  
講師 新保祐司(都留文科大学教授)
- 9・18(金) 閲覧室資料紹介「やまなしの文学碑散歩」雲母  
100年に寄せて(～11・23)
- 9・19(土) 企画展「雲母」創刊100年記念「俳句百景 季節を  
生きる喜び」開始(～11・23)
- 9・22(火) 茶室「素心菴」にて呈茶
- 10・3(土) 朗読講演会「川上未映子さんによる新訳『たけくら  
べ』朗読と講演」  
講師 川上未映子(作家)
- 10・4(日) 企画展関連座談会「季節と日本人—大震災と季語  
の宇宙」  
講師 宇多喜代子(俳人)・長谷川權(俳人)・井上  
康明(俳人)
- 10・8(木) 年間文学講座Ⅱ「明治十手架」  
講師 新保祐司(都留文科大学教授)
- 10・10(土) 企画展連続講座①「俳諧から俳句へ—歳時記を読  
む」  
講師 復本一郎(国文学者・神奈川大学名誉教授)
- 10・11(日) 第6回読書会
- 10・14(水) 閲覧室 大村智先生寄稿雑誌「中央線」資料紹介  
(～3・31)
- 10・15(木) 年間文学講座Ⅲ「古典文学にみられる甲斐の動物  
たち」  
講師 伊藤夏穂(当館学芸員)
- 閲覧室 文学者の誕生日にちなんだ資料紹介「八  
木義徳」(～10・29)
- 10・17(土) 企画展連続講座②「季」と近代俳句について  
講師 岸本尚毅(俳人)
- 10・18(日) 茶室「素心菴」にて呈茶
- 10・24(土) 年間文学講座Ⅰ「定子の死」  
講師 池田尚隆(山梨大学教授)
- 10・27(火) 教師のための学習会
- 10・31(土) 企画展関連対談「俳句の人間、短歌の人間」  
講師 坪内稔典(俳人)・三枝昂之(当館館長・歌  
人)
- 11・3(火) 茶室「素心菴」にて呈茶
- 11・7(土) 企画展連続講座③「戦後の生活環境と季語—蛇笏・  
龍太・「雲母」俳人の作品より—」  
講師 瀧澤和治(俳人)
- 11・8(日) 第7回読書会
- 11・13(金) 教育センター共催事業 初任者研修
- 11・14(土) 企画展連続講座④  
「「雲母」900号のあゆみ」  
講師 高室有子(当館学芸課長)
- 「季語をめぐる—出品資料のみどころ」  
講師 中野和子(当館学芸員)
- 11・15(日) 企画展・笛吹市ゆかりの文学散歩①
- 11・20(金) 書庫見学  
茶室「素心菴」にて呈茶
- 11・21(土) 企画展・笛吹市ゆかりの文学散歩②
- 11・22(日) 名作映画鑑賞会「縮図」
- 11・28(土) 年間文学講座Ⅰ「道長と中関白家」  
講師 池田尚隆(山梨大学教授)
- 12・2(水) 閲覧室 文学者の誕生日にちなんだ資料紹介「与  
謝野晶子」(～2・17)
- 12・12(土) リーディングシアター 2015 in 文学館
- 12・13(日) 第8回読書会
- 12・17(木) 年間文学講座Ⅱ「山田風太郎の幕末小説について」  
講師 新保祐司(都留文科大学教授)
- 12・19(土) 年間文学講座Ⅰ「枕草子の世界」  
講師 池田尚隆(山梨大学教授)
- 1・9(土) 新春子どもワークショップ「百人一首教室」  
講師 清水章子ほか(竜王かるた会)
- 1・10(日) 茶室「素心菴」にて呈茶
- 1・22(金) 閲覧室 文学者の誕生日にちなんだ資料紹介「深  
沢七郎」(～2・2)
- 1・23(土) 「新収蔵品展 お宝そろいぶみ」開始(～3・21)
- 1・24(日) 第9回読書会
- 2・5(金) 閲覧室 文学者の誕生日にちなんだ資料紹介「中  
村星湖」(～3・19)
- 2・14(日) 第10回読書会
- 2・19(金) 閲覧室資料紹介「映像になった文学作品」(～4・10)
- 3・2(水) やまなし文学賞選考結果発表
- 3・6(日) 第11回読書会

## 利用のご案内

## ■開館時間

- 展示室 9:00～17:00 (入室は16:30まで)
- 閲覧室・研究室 9:00～19:00 (土・日・祝日は18:00まで)
- 講 堂・研修室 9:00～21:00
- 茶 室 9:00～21:00 (準備・片付けの時間も含まれます)
- ミュージアムショップ 9:30～16:20

## ■休館日(4月～6月)

- 4月4・11・18・25日
- 5月9・16・23・30日
- 6月6・13・20・27日

## ■平成28年度山梨県立文学館「友の会」会員募集のご案内

「友の会」では、文学館を多くの皆様に利用していただくため、当館が行う文学イベント等の情報を提供しています。申し込み締め切りは特にありませんが、資格を有する期間は平成28年4月1日から、翌年3月31日までです。年会費は1,000円です。詳細は文学館「友の会」事務局までお問い合わせください。

## ■アクセス

中央自動車道甲府昭和ICから

料金所を昇仙峡・湯村方面へ出、200m先左折、徳行立体南交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点左折、国道52号を韮崎方面約1km左側。

JR中央本線甲府駅から

南口、2番バス乗り場から発車するバスで約15分、「県立美術館」下車。

## ■常設展観覧料

	個人	団体 (20名以上)	美術館 共通券
一般	320円	250円	670円
大学生	210円	170円	340円

※65歳以上の方、障がい者及び介護者、並びに高校生以下の児童・生徒の観覧料は無料です。

山梨県立文学館 館報 第98号

平成28年3月10日発行

編集兼  
発行人 三枝 昂之

発行所 山梨県立文学館

〒400-0065

山梨県甲府市貢川一丁目5-35

☎ 055(235)8080 FAX 055(226)9032

<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

※紙面の無断転載はお断りします。